

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の 1年度目)

1. 研究課題

(和文) 近代天皇制と社会

(英文) The Modern Emperor System and Japanese Society

2. 研究代表者

(氏名) 高木博志

3. 研究期間

平成25年4月から 平成28年3月まで

4. 研究目的 (400字程度)

昨今、歴史研究において、天皇制を国家や社会とのかかわりで考えることが少なくなり、「天皇」個人や「天皇像」といった研究に流れがちである。そのようななかで、単なる政治過程ではない、「近代天皇制と社会」を対象とすることにより、日本の近現代を考えてみたい。ひとつには明治維新からアジア・太平洋戦争にいたる過程を、「近代天皇制と社会」から考えることで近代日本の特殊性や普遍性を再考する。近世後期から近現代までを見通して、町や村といった地域や、文化・宗教・思想・教育・社会運動・民俗などを視野に入れた広い意味での「社会」と天皇制との関係を考えてゆく。研究会では、もちろん「政治」の重要性を否定するものではない。政治史・教育史・文化史・思想史・運動史・美術史・植民地研究・民俗学・地域史などの諸分野の研究者とともに考えてゆきたい。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

本年度の研究会の実施内容を掲げる。平成25年4月27日、小川原宏幸「大韓帝国における皇帝イメージの変遷—皇帝巡幸を焦点に」、平山 昇「大正期以降東京における初詣の変容—転換点としての天皇の代替りと明治神宮創建—」、5月18日松山恵「近代日本における首都の表出—東京奠都と江戸の改造」、6月15日、書評：田中智子『近代日本高等教育体制の黎明』（思文閣出版）（評者駒込武）、7月20日 高木博志「明治宮中の仏教信仰—帝都と古都」、島藺進「神社神道の形成と天皇崇敬」、9月16日～17日吉野山方面 吉野神宮・村上義光墓・金峯山寺・桜花壇見学神社などの見学と吉井敏幸・黒岩康博による学習会、10月19日、佐竹朋子「近世公家社会における一門一族」、上田長生「明治期の陵墓祭祀と管理」、11月30日、社本沙也香「近代における明治維新観と「功臣」顕彰—勅撰文銅碑を中心に—」、池田さなえ「明治二〇年代の御料林に求められた国家的・社会的役割」、12月21日 遠藤俊六「聯隊区縁辺の村々と戦争—日清・日露をはさんで」、井上勝生「東学農民戦争と日本—これからの研究のために」、平成26年1月25日、高木博志「陵墓公開の現状と課題」、ジョン・グリーン「戦後の伊勢をかたる：神宮と天皇と社会」、3月29日 書評；市川秀之『「民俗」の創出』（岩田書院、2013年）（評者高久嶺之介）

6. 研究成果の概要 (400字程度)

共同研究B（4月より）の初年度となり、公募制の班員も迎え、毎回、19人前後の参加者を得

て10回の研究会（合計17人の報告者）を積み重ねた。明治維新からアジア・太平洋戦争後にいたる時期において、近代天皇制を単なる政治過程ではなく、社会との関わりを考えることにより、近代日本の特殊性や普遍性を再考したい意図があった。日本近現代史のみならず、美術史、朝鮮史、建築史、民俗学などの学際的な参加者と報告を得て、すすめている。9月16日～17日には、天皇制と国民道徳の問題を考える上で重要な、吉野地方の南朝史跡の巡見を、吉井敏幸・黒岩康博（天理大学）の案内により行った。

7. 共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

共同研究会参加者の共同研究会に関連した著書、編著をかかげる。

- ① 高木博志編『近代日本の歴史都市—古都と城下町』（思文閣出版、2013年8月、全600頁）
京都・奈良・伊勢・金沢・仙台など19篇の論文からなる高木博志班長・近代古都研究班（平成18～23年度）の研究成果報告書
- ② 市川秀之『「民俗」の創出』（岩田書院、2013年4月）
- ③ 河西秀哉編『戦後史のなかの象徴天皇制』（吉田書店、2013年11月）
- ④ 尾谷雅比古『近代古墳保存行政の研究』（思文閣出版、2014年2月）
- ⑤ 小林丈広編『京都における歴史学の誕生』（ミネルヴァ書房、2014年3月）

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区 分	機関数	受入人数			延べ人数		
			外国人	大学院生		外国人	大学院生
学内（法人内）	4	12	2	2	47	6	7
国立大学	5	6			14		
公立大学	2	2			9		
私立大学	16	17			77		
大学共同利用機関法人	1	1	1		6	6	
独立行政法人等公的研究機関	3	3			13		
民間機関							
外国機関							
その他	1	1			5		
計	32	42	3	2	171	12	7

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

（例）・1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

（参加研究者がファーストオーサーであるものを対象）

論文数	25	
うち国際学術誌に掲載された論文数	()	1
	()	()

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記載。

役割			
論文数			
	うち国際学術誌に掲載された論文数	()	()

※下段の()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載。

※ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なものを以下に記載。

※ 拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
高木博志編『近代日本の歴史都市』(思文閣出版)	13	「修学旅行と奈良・京都・伊勢」(高木博志)、「郡区町村編制法と京都」(小林丈広)、「1893年オーストリア皇族の来京」(高久嶺之介)、「明治期「洛外」の朝廷由緒と「古都」」(谷川穰)、「幸野樗嶺「秋日田家図」について」(高階絵里加)、「歴史を表象する空間としての京都御所・御苑」(河西秀哉)、「権門寺社の歴史と奈良町の歴史との間」(幡鎌一弘)、「平城神宮創建計画と奈良」(黒岩康博)、「神都物語」(ジョン・グリーン)、「「城下町金沢」の記憶」(本康宏史)、「武士と武家地の行方」(岩城卓二)、「高等中学校制度と地方都市」(田中智子)ほか	左記
メディア史研究 34	1	二重橋前平癒祈願と明治神宮創建論争	平山昇
史敏 11	1	桓武天皇陵の治定と「伏見古図」	上田長生
歴史評論 762	1	保護国下大韓帝国皇帝儀礼の展開	小川原宏幸
Japan Review 25	1	The Buddhist Faith of the Japanese Imperial Family after the Meiji Restoration.	Hiroshi Takagi

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその

理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由			
掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名